

企画展

遊びの美

Museum Collection Exhibition

The Art of Cultural Amusement

「遊び」と聞いて、どのようなイメージが浮かぶでしょうか。子供の頃に熱中した遊び、あるいは休日のレジャーやスポーツかもしれません。しかし、歴史に目を向けてみると、遊びは単なる遊樂ではなく、必要な教養を高めることであり、求められる技芸を磨くことでもありました。

平安時代の公家の遊びの一つに歌合うたあわせがあげられます。左右に分かれて和歌を詠み、その優劣を競うものですが、そもそも彼らにとって歌を詠むことはコミュニケーションの重要な手段であり、必須の教養でもありました。また、同じく平安時代に盛んになった蹴鞠けまりは、貴人たちが屋外で楽しんでまさにスポーツですが、やがて鞠道きくどうとして形式が整えられるとともに、それを専門とする家も生まれました。一方、乗馬や弓矢の技術を競う犬追物いぬおぼや狩猟などの武家の遊びには、武芸の鍛錬という側面がありました。さらに江戸時代になると、太平の世を背景に庶民の経済力や行動範囲が拡大するのにもない、祭礼や社寺参詣が娯楽や観光を兼ねるようになります。それらは、共同体の結束を強め、見聞を広めることに寄与したことでしょう。遊びは、人が楽しみながら、社会の中でより良く生きる術を身に着ける手段であり、日々の暮らしに潤いを与え、生きるうえで欠かすことのできない存在なのです。

本展では文化としての遊びの諸相を、館蔵の絵画や古筆、なかでも屏風を中心に紹介します。新春を迎えるにふさわしい、華やかな金屏風の競演もあわせてお楽しみください。

2022年

12月17日(土) ~ 2023年 2月5日(日)

日時指定予約制

(12月26日(月)~1月4日(水)は全館休館)

根津美術館 NEZU MUSEUM <https://www.nezu-muse.or.jp>

根津美術館
NEZU MUSEUM



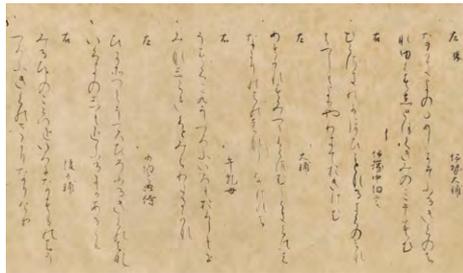
雅な遊び—蹴鞠、物合

重要美術品 おうか けまりずびょうぶ
 桜下蹴鞠図屏風（右隻）
 6曲1双
 紙本金地着色
 日本・江戸時代 17世紀



鹿革の鞠を蹴り、回数や姿勢の美しさを競う蹴鞠は、公家が屋外で楽しんだ代表的な遊び。飛鳥井流などの流派が形成されるほど、蹴鞠の技は高められた。本作品は満開の桜の木の下、邸前の庭で行われる蹴鞠の様子を描く。画面中央の上方に描かれた鞠に競技者の視線が集中する。

じょうとうもんいんしやうしきくあわせざんかん
 上東門院彰子菊合残巻
じっかんぼんうたあわせ
 (十巻本歌合) (部分)
むねたかしんのう
 伝 宗尊親王筆
 1巻 紙本墨書
 日本・平安時代 11世紀
 植村和堂氏寄贈



うたあわせ
 歌合は、左右のチームに分かれて歌の優劣を競う文学的な遊びであり、詠歌の上達が求められた。この1巻は、一条天皇の後であった上東門院彰子のもと、菊花の美しさを題材にして10番20首の歌が詠まれた歌合を記録したもの。本展が初公開。



げんじものがたりがじょう
 源氏物語画帖
あわせ
 第十七帖「絵合」
とど みつおき
 伝 土佐光起筆
 1帖 紙本着色・墨書
 日本・江戸時代 17世紀

ふじつぼのちゆうぐう
 宮中での絵の論評の流行を受け、藤壺中宮が女房らを光源氏の後援する梅壺女御と権中納言の娘である弘徽殿女御の二手に分けて行かせた絵合。この絵合も歌合同様、ものの優劣を競う「物合」の一種である。

武芸をみかく遊び



たまものまえものがたりえまき
 玉藻前物語絵巻（部分）
 2巻のうち下巻 紙本着色
 日本・室町時代 16世紀

鳥羽院の寵愛した美女・玉藻前が、実は二尾をもつ老狐とわかり、これを退治する物語。狐退治の命を下された上総介・三浦介の兩人が、狐をしとめるために武技を磨く。馬上から先端にカバーをした矢で犬を追う競技である犬追物は、鎌倉から室町時代にかけ、武家において盛んに行われた。

そがものがたりずびょうぶ
 曾我物語図屏風（右隻）
 6曲1双 紙本着色
 日本・江戸時代 17世紀



源頼朝が自らと幕府の権威を天下に示すため、富士の裾野で繰りひろげた巻狩りの場面。武家の棟梁として御家人の支持を得るためには、武芸に堪能であることが重要であった。狩りは遊楽だけでなく、乗馬や弓矢を訓練できる場でもあった。

※本リリース掲載の作品は、すべて根津美術館所蔵品です。

らくちゆうらくかいずびようぶ
洛中洛外図屏風
8曲1双 紙本金地着色
日本・江戸時代 17世紀
福島静子氏寄贈



京の市街（洛中）と郊外（洛外）の景観を描いた屏風。中心となるモチーフは祇園祭で、右隻に山鉾巡行を、左隻に神輿渡御を描く。人々の生き生きとした表情や身にまとう美しい衣装から、年に一度の祭礼が大きな楽しみになっていたことがうかがえる。

ていないゆうらくずびようぶ
邸内遊楽図屏風
6曲1隻 紙本金地着色
日本・江戸時代 17世紀



遊里の豪壮な建物の内部や庭で展開される様々な遊興の様子を描いた屏風。子供を腕にのせる曲芸や双六、腕相撲に興じる姿など各自が気ままにふるまう。左上の座敷では、江戸時代には庶民にも享受された『平家物語』を琵琶法師が語る様子も見える。

- そのほかの展示作品より： [文化人の遊び] ひやくちんず かのう さんらく 日本・江戸時代 17世紀 茂木克己氏寄贈
[遊んで覚える] せんめんか い がかん 扇面歌意画卷 日本・江戸時代 17世紀
[参詣ついでに観光] いせ さんぐうず びようぶ 伊勢参宮図屏風 日本・江戸時代 17世紀 など

同時開催展

展示室5 山水

日本や中国の山水画で重要視されたのは、理想的な自然の情景を描くことでした。多彩な表現で描かれた、山水画の優品をご紹介します。



はつぽくさんすいず せつそうとうよう
潑墨山水図 拙宗等揚筆
1幅 紙本墨画
日本・室町時代 15世紀
茂木克己氏寄贈

のちに雪舟と名乗る拙宗が、玉潤の潑墨技法に基づいて描いた山水図。墨色は単調だが筆遣いは繊細で、玉潤画風習得への真摯な姿勢を感じさせる。

展示室6 除夜釜—新年を迎える—

大晦日には年末の挨拶を兼ね、除夜釜が開かれます。忙しい年の瀬にふさわしく、亭主は一服の茶でさらりと客をもてなします。



ちやしやく おおみそか ともづつ
茶杓 銘大晦日 共筒
江岑宗左作
1本 竹
日本・江戸時代 17世紀

表千家四代の江岑宗左（1613～72）による茶杓。江岑は、千利休の孫にあたる宗旦の三男で、その跡を継ぎ、紀州徳川家の茶頭をつとめた。

開催概要

展覧会名	企画展「遊びの美」
	日時指定予約制 ご来館前に当館ホームページでの日時指定入館券の購入にご協力ください。 (根津倶楽部会員、招待はがきをお持ちで入館無料の方もご予約ください。)
主催	根津美術館
開催期間	2022年12月17日[土]～2023年2月5日[日] (ただし12月26日[月]～1月4日[水]を除く)
開館時間	午前10時～午後5時(入館は閉館30分前まで)
休館日	毎週月曜日(ただし1月9日[月・祝]は開館し、翌1月10日[火]休館) 年末年始(12月26日[月]～1月4日[水])
入館料	オンライン日時指定予約 一般 1300円(1100円) 学生 1000円(800円) ・()内は障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。 ・当日券(一般1400円)も販売しております。 (ご予約の方を優先してご案内いたしますので、当日券の方は少々お待ちいただくことがあります。 混雑状況によっては当日券を販売しないことがあります。) ・2022年12月13日(火)より当館ホームページで予約を受け付けます。 ・ご予約は1グループ4名までとさせていただきます。団体でのご来館は当分の間ご遠慮ください。
アクセス	地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、 B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分
住所	〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1
お問合せ	Tel. 03-3400-2536(代表) website https://www.nezu-muse.or.jp
広報・取材のお問合せ	学芸部 広報課 所/村岡 Tel. 03-3400-2538(直通) e-mail: press@nezu-muse.or.jp

当館の広報制作物に関して、郵送からメール配信への切り替えをご希望の方は、どうぞお知らせください。
プレスリリースと画像申請書は、当館ウェブサイトの「プレス関係の方へ」からダウンロードも可能です。

次回展

企画展「仏具の世界—信仰と美のかたち—」
2023年2月18日[土]～3月31日[金]



仏を荘厳・供養し、仏道を修めるために必要な道具、仏具。本展では主に館蔵の仏具を通じ、仏の教えと仏具の造形美のかかわりを探ります。

左: 重要文化財 宝相華銀平文袈裟箱 日本・平安時代 12世紀
右: 神護寺経帙 日本・平安時代 12世紀
いずれも根津美術館蔵

*本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報は当館広報課へお問い合わせください。(2022.9)